



このレポートは、私・和仁が毎月のコンサルティング活動や日常生活を通して気づき、学ばせて頂いたことを書き留めたものです。
お気軽にご笑読頂ければ幸いです。

【今月の気づき】



『コスト、品質、納期。どれが一番重要？』

ある製造業の社内ミーティングでのこと。社長が、「当社にとって、コストと品質と納期。いずれも本当に重要だけど、その中であえて順番をつけるとしたら、今はコストが第一優先だ」という話をしました。そのとき、ある社員が次のように異議を唱えました。「わたしは品質だと思います。なぜなら、欠陥やミスがあったら、取引先の信用を損ない、次から仕事をまわしてくれなくなるからです。それは会社にとって致命傷と違いますか？」

また、ある社員は次の発言をしました。「いや〜、納期でしょう。いくら良い品質のものをつくったからと言って、納期を遅れてしまったら、取引先がその上のお客さんに対して迷惑をかけてしまう。その責任は当然、ウチにかかってくるから、次から仕事をもらえなくなるでしょう？」お互いの意見が分裂し、その場に少し、緊張感が走りました。どの意見も、もっともらしく聞こえます。あなたなら、どれを第一優先と考えますか？

このとき、わたしは全社員にある質問をして、挙手してもらいました。「コストが第一優先だと思う人？」「では、品質だという人？」「納期だと思う人？」そのとき、場の空気が思わず笑いにつつまれ、「なるほどなあ」という空気になりました。なぜなら、経営陣は「コスト」をあげ、製造スタッフは「品質」をあげ、配送スタッフは「納期」をあげ、見事なまでに役割に応じてきれいに分かれたからです。つまり、それぞれの**立場に応じてモノの見方が違い、優先順位が変わってくる**。

それを踏まえ、わたしはその場で言いました。「今、取引先が一番重要視していることは、価格ですよね。どれだけ品質や納期をアピールしても、価格が他社より目立って高いようでは、はじめから戦力外通告されてしまう。だから、まず目の前の仕事をつくるためには価格競争力は不可欠で、そのためにはミスによる廃棄や二度手間での非効率な仕事の仕方による無駄なコストを削減し、価格面で他社に引けをとらない状況をつくる必要がある。その上で、やっと当社の品質の素晴らしさをアピールするチャンスが与えられるんです」とすると、みなさん納得された表情に変わりました。そして、さらに付け加えました。「でも、これも状況が変われば、また優先順位が変わってくることは、当然ありますよね」と。いろいろな角度からモノを見る目、そしてその上で「今」の最重要事項を見出す力を持ちたいものです。

【今の一冊から】

『仮の寿命から逆算して、今を生きる』

人生があと五年で終わるとしたら何をやりたいか？メンターの1人に、あるとき、この質問をいきなり投げかけられました。それまで、「あなたの人生があと一か月だったとしたら？」というのは、聞いたことがありました。でも、その質問だと「ハワイに行く」「バッグを買う」「世界一周する」など、享乐的なことしか思いつかないでしょう。そういうことは、単なる退屈な生活の反動で、本当にやりたいことではありません。

でも、「あと五年で終わるとしたら・・・」という質問だと、真剣に残りの人生を考えることになるでしょう。あと五年という時間は、短いようで長い時間です。本当にやりたかったことを1つずつ整理して、思いが残らないように、やっていくのではないのでしょうか。

（『ピンチをチャンスに変える51の質問』 本田健 著
大和書房 P.106 より引用）

「人生があと5年で終わるとしたら何をやりたいか？」

これは人生の優先順位を考えさせられる、とてもインパクトのある質問だと思いませんか？以前、堀貞一郎先生から、「今の平均寿命から今の自分の年齢を引いた、“残存年齢”をはじき出すんです。そうして、毎年1歳ずつ減っていくのを想像すると、1日1日を大切にしようという気がしてくるでしょう」というお話をうかがったときも、ハッと目を覚まされた思いがしました。と言うことは、わたしたちは、それだけ**日頃は「終わりを意識せずに生きている**」ということなんですよ。

わたしは今、37歳。あと2年半で40歳になります。

30代のうちに、やっておきたかったことはなにか？

40代になるとやりにくくなるから、今のうちにやっておいたほうがいいことはなにか？

また、これまで・そしてこれからのビジネスサイクルを俯瞰したとき、今やっておくべきことはなにか？

家族の年齢。親や配偶者、子供の年齢を考えて、今やっておいたほうがよいことはなにか？
そんなことを、1年のうちに、何回思いめぐらせるだろう？

わたしは、来年以降に備えて、「人々の中に潜在化している真の悩みやお困りごと」を今後半年間、たくさん聴きたい。マネジメントを追求してきた10年間だったので、今後はマーケティングを鍛えたい。30代のうちに、学生や異分野の人と対話する機会を持ち、振り幅を大きくとって目線を合わせられる柔軟性を身につけたい。

あなたは、残存年齢から逆算したとき、今、何をしたいですか？